

### 1 自己評価及び外部評価結果

#### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2470300456		
法人名	社会福祉法人 伊勢湾福祉会		
事業所名	グループホーム マリンの家		
所在地	三重県鈴鹿市中旭が丘1丁目11-8		
自己評価作成日	平成21年8月10日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://kaigos.pref.mie.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2470300456&amp;SCD=320">http://kaigos.pref.mie.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2470300456&amp;SCD=320</a>
----------	---

#### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 三重県社会福祉協議会		
所在地	津市桜橋2丁目131		
訪問調査日	平成 21 年 9 月 3 日		

#### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者、家族との信頼関係を深め、日々の暮らしの中から一人ひとりの状態把握に努める。また、医療機関との連携により健やかな毎日を送っていただき、自立の促進と認知症の進行防止に取り組んでいる。

#### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所としてはH12年のスタートで歴史は古い。H17年にデイサービス、ヘルパーステーションと併設で現在の新興住宅地に移動した。従来からの行政との連携に加えて、新しい地域の自治会との交流もできつつあり、地域に受け入れられてきている。利用者家族会や運営推進会議も2ヶ月に1回は継続して開催しており、新しい管理者の下、職員も「これから新しいことが始まる感じがする」と期待しているくらい、旧来の考え方にとらわれない、新しい事業所となるべく管理者・職員ともども努力している事業所である。

### V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	就業前に事業所の理念を唱和したあと業務に入る。	「事業所だけでなく地域の中に住んでいる人全てが、『共に生きる』、絆を結んで、心開いて！」を職員みんなで、理念としてつくりあげ、これを心において仕事をしましよと、毎日理念を確認している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の自治会に加入し、毎月施設便りを回覧してもらい、地域住民として交流の輪に入れていただけるよう工夫している。	自治会にも参加し、地域のイベント参加や日常の回覧、散歩での挨拶等交流は盛んである。また事業所敷地内に地域の防災倉庫を置く話も出てきている。	
3		○事業所の方を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	施設内の会議室を地域に開放して、民生委員の会合などに提供し、存在を知らしめることで事業所の理解と認知症の理解を深めるよう努めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	年間6回、奇数月に開催し、事業の実施内容や評価、今後の取り組みなどを検討している。	年間6回きっちり開催している。事業所の現状報告だけでなく、地域の情報、包括支援センターからの情報と議題は豊富で、質疑応答も盛んである。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	日頃から市町村担当者と連携をとり、指導を受けたり、情報交換を行っている。また、毎月相談員の訪問を受けている。	市役所に対する事業所側の窓口は、法人の事務長が担当になっているので、管理者が直接市役所と連携することは少ないが、運営推進会議や日頃の関わり合いから、情報交換は密で協力関係はできている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	母体施設で組織する身体拘束廃止委員会にメンバーとして職員が参加し、検討事項を確認して、拘束廃止に向けたケアに取り組んでいる。	法人として拘束・虐待について委員会があり、事業所職員も勉強している。玄関の施錠も家族の要求もあって昨年まではしていたが、今年ではしていない。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員同士が注意をし合って、虐待が見過ごされないよう、防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	それぞれの職員が自主的に学習している程度で、事業所全体で学ぶ機会はなかった。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用者や家族の不安がないよう、十分に説明を行い、理解、納得を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	年間6回、奇数月に開催する家族会での意見や提案を傾聴し、運営に反映するようにしている。	運営推進会議の前に家族会を開催しているので、年6回の開催である。家族の出席も多く、要望・意見もたくさん出る。法人事務長も出席しており、運営に反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的で開催するミーティングでの意見や提案をできるだけ運営に反映できるようにしている。	日常の会話の時や月1回のミーティングで自由に意見・提案を出してもらい、議論している。ミーティングには管理者はもちろん法人事務長も出席している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	定期的で開催するミーティングに参加し、意見や提案を聴く機会をつくっている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	できるだけ研修に参加するよう努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者との交流は少ない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前のアセスメント作成時、事業所の介護支援専門員が本人、家族の不安や要望を聴き取り、安心を確保する関係作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	同上		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	同上		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常生活の中で、本人が得意とする作業を見極めて、一緒にしながら関係づくりに心掛けている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	出来るだけ緊密に情報交換を行い、頻繁な来訪を進めて、家族との絆を深め、共に支えていくことの理解を図っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人の家族や友人の来訪を積極的に進めて、馴染みの関係が途切れずに支え合えるよう努めている。	家族と一緒に外出が多いし、友人の来訪も時々ある。お盆のお墓参りの方もあり、なじみの場所や人の関係が途切れないよう、積極的な声かけを行っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	補完の原理を基本として、助け合い、支え合いながら日常生活を送っていただくよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後も、転出先の事業所や病院を訪ね様子を伺ったり、家族からの相談に応じたりしている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常的な会話の中から本人の希望や意向を汲み取るように計らい、困難な方には、本人の立場に立ったケアを進めている。	日常の会話の中から利用者各人の思いや希望を拾い上げ、介護日誌に書き、職員みんなが見れるようにしている。書き方も「・・・という発言があった」というように、利用者の発言そのままを書くようにしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメントから得られた情報を基に、実際のケアを行う中で、本人のこれまでの暮らし振りなどの把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々のケアの中で、本人の観察を行い、現状の適切な把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	各利用者にそれぞれの担当者を割り当て、日々の観察からの情報や提案を介護支援専門員に伝えている。	ほぼ1対1の職員担当者制を採用しており、家族やかかりつけ医の日頃の意見を採り入れながら、計画を作成し、3ヶ月毎に見直している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別処遇の記録をとることで現状の情報情報を共有化し、ケアプランの見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	時々の本人、家族の状況に応じて、介護支援専門員、看護師と連携をとりながら、固定観念にとらわれず、適切な対応に心掛けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	自治会や民生委員を通じて、地域資源に関する情報(防災活動、祭り行事など)を得て、事業運営に反映させている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時にかかりつけ医との協力関係について説明し、同意を得た上で適切な医療が受けられるよう支援を行っている。	契約時にかかりつけ医の説明をしており、利用者全員が事業所の協力医を選んでいる。24時間対応であり、毎週往診もある協力医の方が、家族としても安心感が強いものとなっている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日常的に、利用者状態を看護師に報告し、適切な対応をとるようにしている。また日頃から指導、アドバイスを受け、医療面からの意見を積極的に取り入れている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	看護師を中心に医療連携ができています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	経過や状況、方針について早い段階から家族に説明し、家族が不安に陥ることのないよう支援している。	現状では重度化された時のハード面(風呂等)の対応が難しいため、契約時点で他の施設への入所手続きをしていただく方針を説明している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時、事故発生時の対応方法について、看護師の指導で教育されている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練の実施や緊急連絡網の整備、防災組織の編成など対応を行っている。	火災や地震災害には事業所としても関心を持っており、運営推進会議の議題にも挙げ、火災通報・消火・避難訓練を行っている。また夜間想定訓練も行う予定になっている。	自治会の防災倉庫を事業所敷地内に置く計画も進められており、事業所の地域貢献の1つとして前向きに取り組んでいただき、訓練そのものにも地域住民の参加をお願いする等、協力体制を築かれるよう期待する。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人権を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない敬意を込めた言葉遣いに心掛けている。	利用者は人生の大先輩であることを念頭に、「言葉の虐待をしない」「子ども扱いをしない」を重点項目にしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常的な会話や観察から、本人の思いや希望を汲み取り、自己決定できるように働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者のペースに合わせた日課づくりに努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	いつも同じ服を着るのではなく、本人の意向を尊重し、選んで着ていただいている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の後片付けは、毎日手伝っていただき、一緒に作業してもらっている。	朝食は事業所で準備するが、昼と夜は法人の厨房で作ったものを持ち込み、盛り付け等を行っている。食事時のテーブル拭きやおしぼり配り、後片付け等できる方が手伝っている。	本部厨房での食事準備は、法人全体の経営方針であると理解できるが、食事作りは生活の重要な一部分であることを再認識願ひ、事業所キッチンでのおやつ作り等の手作りの機会を増やしていただくことを希望する。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	粥食・キザミ食・ミキサー食など状態に合わせた食事の提供に心掛けている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、声掛け、介助で口腔ケアを実施している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄周期のデータを取って、早めの声掛けとトイレ誘導を行い、排泄の自立に取り組んでいる。	排泄の自立に取り組んでおり、寝たっきりの利用者以外は、オムツの人はいない。リハビリパンツの方は布パンツとパットに替わるよう職員も努力している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取を多めにし、運動や腹部マッサージを必要に応じ行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	週3回程度入浴回数をとって、入浴日でない方には足浴、清拭を行っている。	1日に4～5人で週3回は入浴している。利用者の皆さんは夜寝るのが早く、夜の入浴希望はない。併設のデイサービスに車いす対応の風呂があり、車いすの方は利用できる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	時々状況に応じ、昼寝の時間をもうけたり、浮腫が表れやすい方には、足を上げていただいたり工夫をしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤については、ご家族に説明をし、服薬は2名以上でチェックするようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者の状態に応じて家事の役割を分担していただくように、また、生活歴を考慮したレクリエーションを行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	本年度は新型インフルエンザの影響で外出を控えたが、体調や天候に配慮してできるだけ出かけるようにしている。	普段の天気の良い日は、近所の散歩や出かけることが多いが、今年は新型インフルエンザのため外出が少なくなっている。	新型インフルエンザの影響もあるが、事業所の自己点検でも「利用者は戸外に行きたいところへ出かけていない」の評価になっている。本人や家族の希望・要望も入れ、戸外に出られるような支援もお願いしたい。



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	管理責任の問題があるため、ご家族の了解を得るようにしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	現在のところ、積極的な支援を行っていない。比較的近隣在住の方が多く、頻繁に来訪がある。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	不快な刺激を招かないよう、環境に配慮するとともに、季節感を取り入れるよう、掲示物や置物に配慮している。	9人の利用者には広すぎるくらいの食堂兼居間があり、その両側に部屋がある構造で、ゆったりと開放感が感じられる。窓も大きく明るく、風通しも良い。テレビの音も部屋が大きいため小さく聞こえた。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者の状態や性格を考慮して座位置を決めている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者の心身状態にもよるが、家族と相談のうえ、居心地のよい環境づくりに努めている。	利用者各人の使い慣れた家具やベットを持ち込んでいるし、壁には手づくりの作品を飾り、自分流の部屋作りをされている。各部屋には大きな収納戸棚があるためか、部屋がすっきりして見える。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	安全に配慮した建物構造にしており、身体状況に合わせた自立の促進に努めている。		